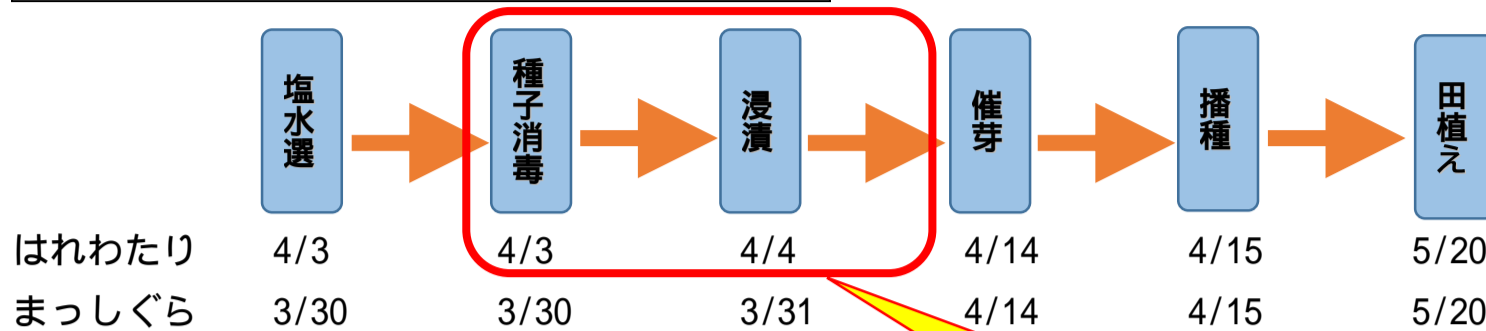




適期の田植え、苗作りに向け、塩水選・消毒、浸漬作業の計画を立てましょう。
育苗予定地は早めの除雪をし、ハウスでは早めにビニールを張って地温上昇に努めましょう。

1. 今後の作業スケジュール(目安)

5月20日頃を田植えと想定した場合の目安です。



「塩水選」の注意点

前年が高温の年は、割れもみが発生する場合があります。(発芽には問題ありません)
割れもみは表面に気泡ができやすく沈みにくいので、一度水に浸けてから塩水選しましょう。



水温は10~15

2. 塩水選

充実した種もみを選別する上でとても大切な作業です。
発芽率向上、健苗育成のために実施しましょう。
塩水選を行ったあとは、すぐに種もみを水でよく洗いましょう。

| 種もみ | 比重 | 塩の量(水10当たり) |
|-----|------|-------------|
| うるち | 1.13 | 2.1kg |
| もち | 1.08 | 1.2kg |

3. 種子消毒

種もみの表面には様々な病原菌が付着しています。しっかり消毒し、病気の発現を防ぎましょう。
使用時期は、「今後の作業スケジュール」を参考にしましょう。

| 薬剤名 | 低濃度浸漬法 | 使用量 |
|-----------------|------------------|-------------------------|
| テクリードC フロアブル | 200倍液に 24時間浸漬 | 薬100ml/水20で種籾20kg消毒できます |

「はれわたり」の注意点

はれわたりの穂発芽性は極難です。出芽をそろえるためにも、種子消毒・浸漬時の水温管理(10以上)をきちんと行いましょう。

4. 浸漬

~種もみも呼吸をしています~

浸漬日数: 2週間程度(日平均水温の積算で100以上)を目安にしましょう。
浸漬期間が不十分だと、出芽不良や出芽遅れの原因となります。
出芽不良を防ぐため、水温は10以下にならないようにしましょう。
水の交換: 種子消毒剤の効果を高めるため最初の2日間は行わないで、
それ以降は3日に1回程度行いましょう。
種もみ袋は、上下の入れ替えも行い、水温差が生じないようにしましょう。

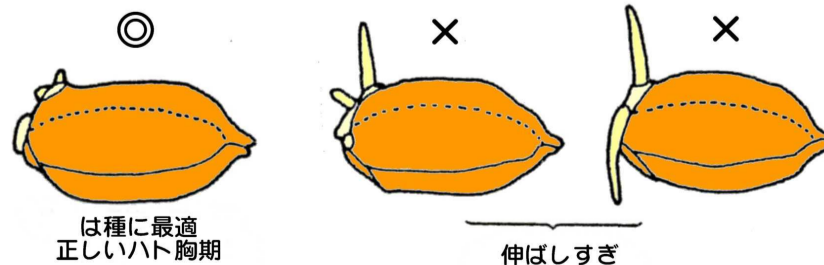
5. 床土の準備

~10a当たり、苗35枚を目安に準備しましょう~

| 床土名 | 資材名 | 1箱当たりの使用量 | 1袋(本)でできる箱数 | 使用方法・注意点など | |
|-------------|---------|---------------------|--------------------------|--------------------------|----------------|
| 山土の場合 | サイコー11号 | 20g | 250箱/1袋(5kg) | | |
| | とかすだけ | 1 | 500箱/1袋(10kg) | 水500に1袋を溶かしてかん注する肥料です。 | |
| | どちらか | ナエファイン粉剤 | 8g | 125箱/1袋(1kg) | 土壌混和。苗立枯病対策。 |
| | | ナエファインフロアブル | 1 | 200箱/1本(100ml) 2,000倍 | 播種時かん注。苗立枯病対策。 |
| 人工培土の場合 | 無肥料培土 | 床土2.7kg 覆土0.8kg | 約5.7箱/1袋 | 無肥料ですので、必ず肥料を混合して下さい。 | |
| | 苗の土 | 床土2.1kg 覆土1.2kg | 約6箱/1袋 | | |
| | 軽量培土 | 床土1.0kg 覆土0.75kg | 約11箱/1袋 | | |
| | どちらか | ナエファイン粉剤 | 6g | 166箱/1袋(1kg) | 土壌混和。苗立枯病対策。 |
| ナエファインフロアブル | | 1 | 200箱/1本(100ml) 2,000倍 | 播種時かん注。苗立枯病対策。 | |

6. 催芽及び播種

催芽温度...約30~32で16~20時間程度。
ハト胸程度とし、芽や根の伸ばしすぎは、播種作業時に折れ、生育の遅れの原因となります。
播種量...1箱当たり催芽籾で120g程度にしましょう。
厚播きは、生育不良やムレ苗の要因となります。



「はれわたり」の注意点

催芽は種籾の半分以上がハト胸状態になるまで確実にいきましょう!
ハト胸割合が低いまま播種すると、他の品種よりも出芽が不ぞろいになります。